

tag	番号	企画論文部門名	企画論文部門名(英文訳)	主オーガナイザ	副オーガナイザ	E-mail	企画概要(300字以内)	分野区分	希望セッション数	公募	ポスター
災害	1	東日本大震災を教訓とした公共交通システムの課題	Lessons from the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake for public transport policy	高田和幸・東京電機大学		takada@g.dendai.ac.jp	3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、東北地方を中心として甚大な被害が発生した。高齢化や人口減少が進展した三陸地方では、今後の公共交通サービスの提供の在り方や仮設住宅からの移動手段、財源負担、復旧の迅速性などの過去に経験したことのない問題点が浮き彫りとなった。一方、首都圏では、莫大な数の帰宅困難者が発生し、地震後の鉄道の運行再開のタイミング、バスによる代替輸送計画、安全確認の迅速さなどの問題点が生じた。これら、今回の地震を受けて発生した問題点を教訓として、現在、問題を抱えている三陸地方、および今後発生が想定されている大規模地震災害における公共交通システムの在り方について議論を深める。	実務・技術者課題分野	2	あり	
災害	2	総合災害リスクマネジメント	Integrated Disaster Risk Management	高木朗義・岐阜大学	多々納裕一・京都大学	a_takagi@gifu-u.ac.jp	災害は地震や台風などの自然現象を引き金とするが、それが被害を引き起こす過程には人間社会の複雑な営みが介在している。したがって、災害を人間社会の中で発生する社会経済現象として捉え、災害直後や復興期から平時までの災害対応を計画論的視点から分析し、次の災害に備えていく必要がある。特に近年、災害の社会・経済的な側面の重要性が認識され、災害に対する都市・地域システムの構築、災害復旧・復興計画など、防災に関する土木計画学分野への期待は益々高まっている。本企画では、平時および災害復興過程における地域を調査・分析し、今後の災害対応に活かす方法論等について討論する。	集中討議分野	2	あり	希望しない
災害	3	積雪寒冷地における冬期の同時複合的災害の課題と対応策	Problems and Measures on Winter Coinstantaneous Composite Disasters in Cold and Snowy Regions	浅野基樹(独法)土木研究所寒地土木研究所	松澤 勝(独法)土木研究所寒地土木研究所	m-asano@ceri.go.jp	これまで冬期道路に係る企画セッションとして、スパイクタイヤ規制あるいは財政制約条件下における維持可能な冬期道路サービス維持・向上のため、意思決定や評価・マネジメントに係るセッションを実施した。他方、昨今、昨年末から年始に見られたような極めて局地的な豪雪など、通常時の冬期道路管理では対応が困難な事象が発生している中で、東日本大震災が3月とは言え春まだ遠い寒令な時期に発生した。本セッションでは、通常時もしくは異常気象時において冬期条件と同時複合的に災害が発生した場合の問題点や対応策について、土木計画、維持管理事業、体制、避難者支援及びロジスティックス等の幅広い観点から発表・討議する。	実務・技術者課題分野	1	あり	希望しない
災害	4	災害と交通	Transportation and Social System in Disasters	土屋 哲・長岡技術科学大学	武藤慎一・山梨大学	tsuchiya@vos.nagaokaut.ac.jp	災害の社会経済的影響を考える上で交通網寸断の影響は大きな要素であるが、災害時交通の様相・実態や考え方については、これまでの大規模災害から得られた知見が定量的な分析を行うのに十分に整理されているとは言いがたい。また、大半の交通需要が派生的需要として捉えられる以上、交通システムに閉じた議論のみならず、最終需要としての社会活動(病院治療など)との相互作用を考慮した視点での議論も重要であり、論点は広範囲にわたる。そこで、本企画では、モデル分析や実態調査・分析を通して、「災害に強い交通ネットワークのあり方」、「災害時に道路に求められる機能」という二つの視点から、災害と交通について総合的に討論する。	集中討議分野	2	あり	希望しない
災害	5	災害情報	Disaster Information	畑山満則・京都大学防災研究所	梶谷義雄・京都大学防災研究所	hatayama@imdr.pri.kyoto-u.ac.jp	災害時の人間行動は、災害前に蓄積された知識と災害時に知りえた情報が複雑に絡みあった構造になっており、その課題解決には様々な角度からの議論が必要である。災害情報に関しては、地震、津波、水害、土砂災害などに対して災害前のリスクコミュニケーション、防災教育から災害発生時の情報発信手段、タイミング、内容やそれを支援する情報技術に至るまで様々な研究が行われている。本企画では、これらの災害時行動に影響を与える情報を取り扱う研究に焦点を置き、様々な角度からの討論を行うことを目的とする。	集中討議分野	2	あり	希望しない
災害	6	災害時も考慮した地域モビリティの確保施策	Exploring effective measures for local mobility counting disasters.	秋村成一郎・国土交通省 総合政策局	田村亨・室蘭工業大学	nodu-r85aa@milit.go.jp	地域のモビリティの確保は、景気低迷、過疎化、少子高齢化などにより、特に地方では悪化の一途をたどっており、その確保・維持が重要な課題となっている。加えて、今般の東日本大震災においては、地域における円滑な移動の確保の重要となり、多様なモビリティの確保の方策が必要となったところである。そこで、本セッションでは、以上の認識の下、平時の地域モビリティ確保の取り組みと、災害時の取り組み双方に共通する課題の検討、若しくはそれぞれに特殊な課題に対する検討を踏まえ、平時から取り組む工夫、首都直下、東海、東南海・南海地震など今後想定される地域に対する取り組みのあり方や、独自の工夫事例、さらに施策支援ツール等に関する研究成果の発表・討議を行う。	実務・技術者課題分野	2		

災害	7	道路ネットワークの防災機能評価	Evaluation for disaster prevention functions of the road network	高橋 清・北見工業大学	有村 幹治・室蘭工業大学	arimura@mmm.mu roran-it.ac.jp	国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会は、本年3月の大震災を踏まえて、B/C(費用便益比)とは別の「防災機能を評価する指標」づくりをはじめている。その特徴は、①現行道路ネットワークを対象として、被災外力に対して地域が孤立しないこと(迂回率)、地域が主要な防災拠点と結びれており回復性が高いこと(連結性)、という2つの指標で評価する(将来道路ネットワークではないことに留意)こと、②道路の交通量や道路周辺の人口に関係しない指標であること、③地域の安全保障として、全国一律で指標化するのではなく、地方整備局単位で、それぞれの外力設定に対応して(例えば、火山噴火対応など)決める指標であること、の3点である。わが国のみ、多くの国が使っている道路整備の評価指標B/Cとは別の新たな指標を持ったことになる。今後、防災機能を評価する指標する枠組みの精査とともに、この2つの指標をどのように組み合わせる道路整備評価を行うのか、が重要である。本企画セッションでは、そもそもB/Cとは別の評価指標を作る意義について、防災機能を評価するときの項目について、議論を深めたい。	集中討議分野	1		
環境	8	低炭素社会に関する都市交通モデリング	Urban Transport Modelling for Low Carbon Society	奥嶋政嗣・徳島大学	秋山孝正・関西大学	okushima@eco.to kushima-u.ac.jp	持続可能な低炭素社会の創出を目指して、都市交通分野における検討を実行するための定量的なモデリング技術を議論する。車両環境に関しては、ハイブリッド車、電気自動車などの普及に関する意識分析モデル、都市圏での低公害車普及モデルなどを議論する。また、交通現象面から二酸化炭素排出量の推計モデル、低炭素化を目指した都市交通運用モデル、交通手段転換モデルなどを議論する。さらに都市圏の低炭素化に対応した都市構造評価モデル、都市活動モデルなど議論する。最終的に各モデリング手法により解析される低炭素社会の現実的方策についての提案を行うとともに、具体的な都市構成としてスマートシティの開発可能性に関する議論を行う。	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない
環境	9	低炭素社会を実現する都市・街区群のデザイン	Urban and neighborhoods design for realizing low carbon society	加藤博和・名古屋大学大学院環境学研究科	戸川卓哉・名古屋大学大学院環境学研究科	kato@genv.nagoya -u.ac.jp	低炭素社会を実現するためには、機器・建築・エネルギー・交通などの要素技術の研究開発が必要であることは言うまでもないが、それら要素技術を実際の都市・街区群の中でどのように配置し、システムとして組み上げていくことが、全体として低炭素社会の実現に結びつくのかという点を明確化する必要があり、土木計画学分野における重要な課題である。そこで本セッションでは、都市～街区群スケールを対象として、各種要素技術を効率的に機能させるための空間構造デザイン、およびそれらを支えるインフラ・エネルギー・資源循環・建築・制度システムなどに関する研究発表を題材として、今後の研究の方向性を議論する。	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない
環境	10	低炭素交通システムの構築	Development of low-carbon transport systems	林良嗣・名古屋大学大学院環境学研究科	中村一樹・名古屋大学大学院環境学研究科	k.naka@urban.env nagoya-u.ac.jp	気候変動問題の緩和策として、国際レベルでのCO2削減目標導入が本格化する中、主なCO2排出起源の1つである交通部門での削減は重要課題である。このため、低炭素社会の実現にむけて、都市内、地域間、国間それぞれのスケールにおいて、低炭素交通システムの構築は必要不可欠な要素となる。このような交通システムの構築には、土地利用・交通政策や技術改善が必要となり、その政策実施の規模やプロセスは経済発展の段階などで異なると考えられる。本セッションでは、低炭素交通システムの提案及び検討、この構築のための政策の評価及び設計手法、アジア途上国への展開などに関する研究発表を題材として、今後の研究の方向性を議論する。	速報的・萌芽的分野	2	あり	
自転車	11	自転車を活用したまちづくりと都市交通政策	Bicycle-related Community Development and Transport Policy	吉田長裕・大阪市立大学	金利昭・茨城大学	yoshida@civil.eng. osaka-cu.ac.jp	近年、世界各国都市では、環境や健康問題を背景として、自転車が都市交通手段として見直され、様々なまちづくりや都市交通施策に活用されつつあります。なかでも、都市型レンタサイクルや共同自転車をはじめとする公共交通を補完するシステムの実験および計画、さらに自転車のもつ可能性を引き出す自転車計画の立案に関わる方法論は、まちづくりやまちづくりなど影響範囲が広範に及ぶため、これらに関わる諸課題を整理しつつ、実現可能性について理解を深める必要があります。そこで本セッションでは、国内外における自転車を活用したまちづくりと都市交通政策に関する事例をもとに、その計画手法や方法論等関わる課題について集中討議します。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない
自転車	12	自転車をめぐるソフト施策、教育	Policy for traffic safety, education, promotion of bicycle riding	元田良孝・岩手県立大学	宇佐美誠史・岩手県立大学	motoda@iwate- pu.ac.jp	平成23年10月末に警察庁は41年ぶりに自転車の実質車道通行への転換を通過し、併せて法令遵守徹底の姿勢を見せた。歩道走行を主体とする日本の自転車交通は限界に達しており、解決すべき問題は多い。自転車走行空間の整備は急務であるが、ハードの整備と同時にソフトの整備も行わなければ効果を発揮しない。ここでは自転車走行に関するソフト施策について議論を行う。対象とする分野はハード施策を除く交通安全、保険制度、法制度、安全教育、自転車と健康、などである。ただし駐輪問題・対策を主テーマとする論文は対象としない。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない
自転車	13	自転車の挙動特性と空間設計	Behaviour study and space design for bicycles	鈴木美緒・東京工業大学	山中英生・徳島大学	mios@enveng.tite ch.ac.jp	自転車の挙動特性(走行位置・速度、滞留、視線)に関する基礎的分析、それらを考慮した交差点、特殊部を含む空間設計について研究事例、実務事例を交えて議論する。	実務・技術者課題分野	2	あり	

交通計画	14	沈黙の交通計画論	Silence and Transportation Planning	久保田尚・埼玉大学		hisashi@dp.civil.saitama-u.ac.jp	交通計画における「沈黙」について考え4年目であり、いくつかの論点が想定される。一つは、社会調査における調査不能者の問題である。PT調査等の回答率激減が深刻な問題になりつつある。郵送方式等が試みられているが、その課題や解決策を議論したい。二つ目は、沈黙のらせん問題である。これまでの研究により、少数派が沈黙する構図だけでなく、「少数の激しい反対層」の存在に対して多数派が沈黙していく構図の存在も明らかになってきた。日本人の特性を踏まえた「沈黙」について議論を深めたい。三つ目は「物語」である。沈黙する市民も、実は深い物語を有しているはずであり、それを読み解くことで地域の事情を深く理解することに繋がる。こうした期待に基づき、全く新しいアプローチを試みる。四つ目は、「発言」である。地域活性化と地域における発言促進の関係に着目した交通政策のあり方を検討したい。これらを中心として、さらに広く議論していきたい。	速報的・萌芽的分野、または実務・技術者課題分野	1	あり	希望しない
交通計画	15	交通系ICデータと交通計画		中村文彦・横国大	牧村和彦・IBS	kmakimura@ibs.or.jp	本企画部門では、交通系ICデータの利用履歴を用いた調査研究に焦点をあて、中長期データによる交通行動分析や交通現象の解明、ネットワークデータの生成技術、可視化技術、問題課題の発見支援、政策評価等の活用、交通戦略立案の支援等の様々な事例について、意見交換を通して、現状の課題と今後の展望を議論する。		1	あり	
交通計画	16	平面交差点の安全・円滑	Safety and efficiency of at-grade intersections	鈴木 弘司・名古屋工業大学	米山 喜之・榊長大	suzuki.koji@nitech.ac.jp	平面交差点は、交通容量上、安全上の要衝であり、道路の性能に大きな影響を及ぼすため、適切に計画・設計・運用制御することが求められる。これまで、信号・無信号交差点での容量、安全に関する数多くの検討がなされてきている。他方、ラウンドアバウトの性能、計画設計などの研究が近年進められ、長野県飯田市でのラウンドアバウト社会実験、寒冷地における導入方法の検討など実務展開に向けた様々な動向も見られる。本セッションでは、ラウンドアバウトを含めた平面交差点の安全性、円滑性に関する調査事例や研究成果を募集し、性能向上につながる構造・運用形態、ラウンドアバウトの実務上の展開方策、課題等について、集中的な討議を行う。	集中討議分野	2	あり	発表件数が多い場合には、論文発表とポスター掲示が同時に行えるセッションを希望する。
生活交通	17	生活交通サービスを支えるしくみと技術	Systems and Technologies for Sustaining Local Transport Services	喜多秀行・神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻	谷本圭志・鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻	kita@crystal.kobe-u.ac.jp	交通基本法案が国会に送られ、交通基本計画策定のための検討も始まろうとしている。我が国の多くの自治体で総合連携計画という名の地域公共交通計画が策定されつつある中、多くの自治体において、新たな取り組みやしくみの提案、そして、調査、分析、計画、運行、運営管理等に関するさまざまな技術が開発されつつある。そこで本企画セッションでは、昨年度に引き続き、制度的・技術的・計画論的な観点から新たな取り組みや手法等に関する知見を持ち寄り、理論的・実証的観点からその有効性と今後の方向性を明らかにする。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望する
生活交通	18	生活交通確保に住民・地域社会が果たす役割	The Role of Regional Residents and Community to Provide Local Public Transport	福本雅之・名古屋大学 大学院環境学専攻	宮崎耕輔・香川高等専門学校	fukumoto@nagoya-u.jp	生活交通の確保は、住民に外出・交流機会の増大といった効果をもたらす、住民のQOL向上に資する。さらに、アクセシビリティが高まることにより地域の魅力向上も期待できる。このように生活交通の確保は、住民個人と地域全体の両者に好影響を与える。地域活性化を意識しながら、住民等が自ら生活交通を確保する取り組みが行われている地域も存在しており、その効果についての研究も進められている。このような状況を踏まえ、地域自らの生活交通確保がその地域・住民に与える効果について、QOLやソーシャルキャピタル、地域力といったキーワードから議論する。	集中討議分野	2	無し	希望しない
東アジア	19	インドネシアジャカルタ都市圏の交通問題と日本の取り組み	Transportation in Jakarta Metropolitan Area and Role of Japan	黒水 健・パシフィックコンサルタンツ(株)	川口 裕久	ken.kuromizu@tkpacific.co.jp	近年、東アジアの経済成長はめざましく、その活力を我が国に取り込もうと、数多くの日本企業が、こぞって海外へ目を向けるようになってきた。しかし、商習慣や人脈、言語等の業務ノウハウ、さらには国民性も相まって、これらのマーケットに対して出遅れしまっている現状がある。また、これらに関する基礎的な情報も非常に限られている。こうした背景から、ジャカルタにおける我が国の過去の取り組みや昨今のプロジェクトの動向についてご紹介するとともに、2009年から三カ年に渡って行われたJABODETABEK都市交通政策統合プロジェクトの結果速報、さらには現在も継続支援している取り組みについてご報告したい。	速報的・萌芽的分野	1	無し	
東アジア	20	東アジア・環太平洋地域の地域・経済統合と国際物流・港湾政策	Regional/Economic Integration and International Logistics/Port Policy in Eastern Asia and the Pacific	柴崎隆一・国土技術政策総合研究所	川崎智也・日本海事センター	shibasaki-r92y2@ysk.nilim.go.jp	昨年度に引き続き、我が国を含む東アジア・環太平洋地域における地域・経済統合の動きや、貿易・国際物流に関する現状・課題、また取り得る政策・戦略やその影響などについて集中的に議論を行う。セッションの主たる着目は土木計画的観点からの国際的な地域・経済統合や国際物流に関する分析・提言にあるものの、国際経済分野の研究、および内貨やアジア以外に視点を置いた国際物流・港湾の研究などについても、現代的な課題に取り組んだものであれば広く募集したい。	集中討議分野	2	あり	希望しない

モビリティ	21	地域における生活サービスの提供とモビリティの役割	Provision of Life Service and the Role of Mobility in the Region	吉田 樹・首都大学東京 大学院都市環境科学研究科	柳原 崇男・近畿大学 理工学部	itsuki-y@mue.biglobe.ne.jp	近年、地域公共交通の衰退や店舗等の撤退などにより、生活サービス(食料品・日用品等の販売、医療サービスなど)の調達が困難となった地域や市民に対する施策が課題となっている。 地域における生活サービスの提供方法は多様であるが、市民自らが移動することで生活サービスの調達を可能にするモビリティの確保は、宅配・往診などの代替サービスと比較して、市民生活の質的向上にどう貢献しているかを示すことが今後の地域交通政策において重要な視座となる。本企画セッションでは、地域におけるさまざまな生活サービスを対象として、モビリティ確保と代替サービスの関係はどのようにあるべきか、各地の事例や課題整理などをもとに集中討議する。	集中討議分野	2	あり	希望しない
モビリティ	22	オールド・ニュータウンとモビリティ	Mobility in Old Newtown	藤原章正・広島大学	カ石真・東京大学	afujiw@hiroshima-u.ac.jp	日本型ニュータウン(NT)は、通勤・通学に適した鉄道網や幹線道路網の沿線に開発、立地している。その地区内交通は、ペリーの近隣住区論をはじめとする計画理論に基づき最適な施設配置と交通静穏化施策に投資がなされてきた。ところが近年、団塊世代にあたるNT居住者が一斉に定年退職期を迎えたことで、都心への通勤・通学環境の魅力は喪失し、高齢者自身の運動能力や移動支援者との互助関係が衰退するにつれて、生活や移動の機会が保障されない社会的排除の問題が顕在化しつつある。本セッションでは、高齢化するNTのモビリティ改善や地区交通計画の再考に向けた調査方法、分析方法等に関する研究成果の発表・討議を行う。	速報的・萌芽的分野	1	あり	希望しない
ITS	23	地域ITS	Regional ITS	金澤文彦・国土交通省	松本修一・慶應義塾大学	shuichi@ae.keio.ac.jp	ETC、VICSやカーナビなどの普及、IT技術と道路との融合などにより、ITSは先進技術の検討段階から社会に浸透させるための新たな段階となるべき転換期を迎えている。このようななか、今後は各地域における固有のニーズに基づくITSサービスや技術の適応、現地での実導入が必要である。 そのために本セッションでは、国内各地域で行われている地域ITSの実務的または実用的な事例研究や取組みを取り上げ、それぞれの地方に適用したITS技術のあり方、およびその活用方法などについての検討なども行う。また地域ITSを実践して行く上での今後の展開方向を討議する。	実務・技術者討議	2		
道路計画	24	道路の計画設計と交通運用の新たな試み	The new method on road planning, design and traffic operation	下川澄雄(財)国土技術研究センター 道路政策グループ	内海泰輔(株)長大	s.shimokawa@jice.or.jp	わが国の道路においては、階層区分に応じた道路交通サービスの提供がなされていない状況にある。このことから、道路の持つ機能を明確にし、性能を適切に発揮できる計画・設計を行っていく必要がある。一方で、昨今では、地域の実状に合った柔軟性のある道路計画・設計への見直しのための議論も活発に行われている。これらに対し、本セッションでは、道路の機能を確保し、安全で交通性能向上に寄与する計画設計や交通運用手法について議論する。関連の論文を広く公募し、事例報告も含め実務からの投稿を特に歓迎する。	集中討議分野	2	あり	希望しない
観光	25	土木計画学と観光科学	Tourism Science and Regional/Infrastructure Planning Studies	清水哲夫・首都大学東京	岡本直久・筑波大学	t-sim@tmu.ac.jp	近年、観光部門では各種の基本統計・動向調査が登場し、観光をより科学的に分析できる環境が徐々に整ってきた。土木計画学は他の観光系学会と比べて、従来から交通行動分析など観光の科学的分析を得意としてきており、培われた技術や方法論を活用して科学に基づく観光振興政策・施策を提案できる力量を有していると考えられる。本セッションでは、土木計画学における観光研究を振り返りつつ、新たな社会的課題に立ち向かうための今後の研究の方向性について、多様な領域の先鋭的な論文を集めて討議したい。	集中討議分野	2		
パーソナル交通	26	パーソナルトランスポーター	Personal Transporter	轟朝幸・日本大学理工学部	西内裕晶・日本大学理工学部	nishiuchi.hiroaki@n	セグウェイに代表されるパーソナルトランスポーター(PT)は、つくば市においてその利用が進められているものの、その後の目立った公道利用については進展が無いのが現状である。本セッションでは、昨年度のセッションに続いて、PTの新たな交通手段としての活用可能性について、学術的な視点のみではなく、実務的な社会実験等の様々な事例報告も交えながら議論する。	速報的・萌芽的分野	2		
航空輸送	27	航空輸送の現状と課題：実務および研究双方に関して(仮題)	Current situation of aviation transport and its issues: from the academic and practical points of view	竹林幹雄・神戸大学大学院海事科学研究科		takebaya@kobe-u.	空港民営化・経営統合、LCCの本格参入など、わが国の航空輸送を取り巻く環境は劇的に変化している。実務者側では、大幅な変化に伴い、全く新しい課題に取り組む必要性が生じている。一方研究者側では、需要予測をはじめとする手法論の改変、制度設計の国際比較など、新たな研究成果が出てきており、今後の実務への利用が検討されている。本セッションでは、以上のような航空を取り巻く新たな状況を鑑みて、実務者・研究者双方から最新の話題・課題・研究成果を紹介するとともに、今後わが国の航空行政・空港運営を考える上での重要課題について検討する。	集中討議	2		
都市鉄道	28	今後の都市鉄道 一政策・研究課題の議論	Policy and Research Issues of Future Urban Railway Planning	日比野直彦・政策研究大学院大学	岩倉成志・芝浦工業大学	hibino@grips.ac.jp	高密度なネットワーク、多頻度運行、相互直通運転等、わが国は世界に誇る都市鉄道システムを有している。しかしながら、慢性的な列車遅延、都心整備に伴う鉄道駅における混雑、空港アクセス対応等といった新たな課題が発生している。また、今後確実に増加する高齢者への対応も検討すべき課題である。本セッションでは、今後15~20年程度を見据え、実務者、研究者双方から最新の話題、課題、研究等を発表し、今後の都市鉄道について議論する。	実務・技術者 課題分野 集中討議分野	2		

都市間旅客交通	29	都市間旅客交通の調査・分析・評価手法の開発	Development of survey, analysis and evaluation technique for the inter-city passenger transportation	塚井誠人・広島大学	柴田宗典・鉄道総合技術研究所	mtukai@hiroshima-u.ac.jp	都市間の旅客交通には交通発生の非日常性、旅客の情報の不完備性、需要薄によってサービス供給が制約される。特に複数機関が統合利用される経路における遅延や欠航リスクなどの、都市間交通ネットワークに固有の特性があり、都市圏内の交通行動分析・計画の方法論を、そのまま適用できない。本セッションでは、全国幹線旅客純流動調査において課題となっているトリップ発生頻度に関して周辺統計情報を活用したサンプル調査に対する適切な拡大係数の付与方法、乗り継ぎ・乗り換えを伴う交通行動など、都市間旅客交通に固有の特性を考慮した調査方法・分析方法の開発に関わる研究を募集し、討論を行う。 Inter-city Passenger Transportation has particular characteristics which are not found in urban daily transportation, such as irregular trip generation, incomplete information of trip makers, supply of service subjected to thin demands, complex effect of service through multi-modal network, and so on. Development trials of new survey, analysis, and evaluation techniques considering characteristics of inter-city transportation above are widely gathered and discussed in this session.	速報的・萌芽的分野		2	あり	希望しない
道路交通データ	30	道路交通データの収集・分析の新たな展開	New development of collection and analysis of road traffic data	上坂克巳・国土技術政策総合研究所	門間俊幸・国土技術政策総合研究所	uesaka-k92d8@nilim.go.jp	平成22年度に道路交通センサスが実施され、平成23年9月30日には、一般交通量調査結果が公表された。この調査結果については、実務・研究で幅広く分析が進められている。一方で、国土交通省では、365日24時間の交通量データ、旅行速度データの収集を目標とする“道路交通データの常時観測体制”を本格実施する局面に入っている。 本セッションでは、交通量常時観測データ、ブロープ旅行時間データ、ETCによるODデータ等の収集方法及びこれらのデータや道路交通センサス結果を用いて道路交通の状況把握、施策の立案及び対策効果の分析を行うための手法について、特に実務上の課題解決の観点から討議する。	実務・技術者課題分野		2	あり	
LRT	31	LRTを活かしたまちづくり	Urban renewal with light rail system	伊藤 雅・広島工業大学 工学部 都市デザイン工学科	波正正敏・大阪産業大学 工学部 都市創造工学科	t.itoh.sn@it-hiroshima.ac.jp	人口の減少と急激な少子・高齢化の進展、地球環境問題の深刻化などに対応するためには、自動車に過度に依存した分散型のまちづくりには限界があると言わざるを得ない。これからは公共交通を中心に歩くことが最優先される都市、便利でアメニティの高い都市、環境負荷が低減された持続可能な都市を創り上げることが重要な課題となっている。本企画セッションでは、欧米の多くの都市でこうしたまちづくりの切り札として導入が進んでいるLRTに着目して、LRT導入の理念や意義、導入に向けての合意形成の仕組み、整備運営のための諸制度、道路空間の再配分問題、交通行動やまちづくりへの多様な効果とその評価方法などについて、集中的に討議したい。	集中討議分野		2	あり	希望しない
動学	32	動学的インフラ管理戦略	Dynamic Strategy of Infrastructure Management	横松宗太・京都大学防災研究所		yoko@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp	インフラストラクチャーの管理は長期間に亘って実施されるため、その計画には動学的視点が不可欠である。本セッションでは単一の土木施設からネットワーク化されたシステム、また環境資源など様々な種類のインフラ管理を対象に、状態の計測や新設、維持補修、再生などの方法やタイミングについて議論する。また高齢化や財源縮小、技術進歩やさまざまなリスクの増大など、社会経済的環境の長期的変化を考慮に入れた、インフラのマネジメントやガバナンスについて理論的・実証的に討議する。	集中討議分野		2	あり	希望しない
景観	33	地域計画のためのビジョン形成と景観まちづくりを考える	Vision drawing for integrated regional planning and the roles of visual environment planning & design	佐々木葉・早稲田大学	岡田智秀・日本大学	yoh@waseda.jp	都市部か地方部かを問わず、地域の環境、交通、産業、コミュニティ形成などの議論を行うには、それらを統合した将来の地域像、すなわちビジョンとしての地域イメージを描くことは重要である。地域環境の総体としての眺めである景観を媒体として、身近な生活環境の改善からより広域な地域のあり方を考えるための方策となるポテンシャルがあると考える。各地で進む様々な景観まちづくりの事例やそのための研究成果を持ち寄り、それらがどのように地域計画に寄与できるのか、あるいは寄与するために必要な方法や理論について議論する。景観を直接の目的にせずとも、興味深い試みや成果がみられる事例・研究での問題意識の共有も歓迎する。	集中討議分野		2	あり	希望しない

途上国	34	途上国の社会基盤計画	Infrastructure planning in developing countries	加藤浩徳・東京大学		kato@civil.t.u-tokyo.ac.jp	多くの途上国では、急激な都市化が進行する一方で、依然として、社会基盤施設の整備が不十分であるため、生産性低下による経済成長阻害が懸念されるとともに、生活環境の悪化、貧困の拡大、災害などへの脆弱性などが深刻な問題となっている。そこで、本セッションは、途上国の社会基盤に関わる諸問題を、土木計画学の観点から調査・分析・検討する論文を募集し、問題解決の方策や今後の望ましい方向性について、広く議論することを目的とする。なお、本セッションでは、英語論文のみを受け付け、また発表および議論も英語の使用を原則とする。 This session welcomes submission of papers for presentation at the Conference of Infrastructure Planning and Management in spring 2012. It covers the planning/policy/technology for tackling with the infrastructure-related problems particularly in developing countries. It includes, but not limited to the following topics: infrastructure investment in developing countries; environment issues in low-income regions; urban transportation policy in Asian mega cities; and vulnerability in urban development. In this session, the submitted papers should be written in English and the presenters are also requested to talk and discuss in English.	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない
アセットマネジメント	35	アセットマネジメントの国際規格化(ISO5500X)に向けて	International Standardization of Asset Management (toward ISO5500X)	小林潔司・京都大学経営管理大学院	貝戸清之・大阪大学大学院	kkoba@psa.mbox.media.kyoto-u.ac.jp	現在、アセットマネジメントの国際標準であるISO5500Xの制定に向け、国内外において精力的な準備が進められている。ISO5500Xは制定後に国際市場で急速に普及するものと考えられる。土木計画学分野においても時機を逃すことなく、ISO5500Xを基軸とするアジア諸国を対象としたアセットマネジメント戦略について検討を行うことが不可欠である。本セッションでは、ISO5500Xの概要、制定に向けた動向と、それを支える総合化技術としてアセットマネジメント技術について説明を加える。さらに、アセットマネジメントに関する理解の一層の進展と、国際市場におけるわが国の競争力向上について、集中的に討議する。	集中討議分野	2	あり	希望しない
案内誘導システム	36	案内誘導システム	Guidance System	外井哲志・九州大学	若林拓史・名城大学	toi@doc.kyushu-u.ac.jp	道路の案内誘導は、目的地までの経路や交通状況に関する情報を提供して、移動者の意思決定を支援するものであり、案内標識のほか、近年はIT技術に基づく情報提供サービスが進展しつつあるが、案内誘導システムとして解決すべき問題は多い。この企画部門では、移動者の安心と安全を目指し案内情報を科学する「案内学」の立場から、案内・誘導の理論、様々な情報媒体における案内情報の提供の工夫、システムの作成などに関する研究報告を募り、学術的・実務的な立場から広く議論することを目的とするものであり、案内標識、カーナビ、歩行者ナビ・まちナビ、観光地案内、地下街案内など広範囲からの研究発表を期待している。	集中討議分野	2	あり	希望しない
交通経済	37	交通経済評価	Economic Evaluation of Transportation Measures	吉井稔雄・愛媛大学		yoshii@cee.ehime-u.ac.jp	高速道路の通行料金、自動車関連税あるいは公共交通機関に対する補助金といった各種交通施策を対象として、社会的な観点から最適な料金水準や税率を設定することが求められている。また、最適な水準を設定するためには、各交通施策の料金レベルや税率の違いが交通行動および諸経済活動に与える影響を定量的に評価する政策評価ツールの開発が必要と考えられる。そこで、本企画セッションでは、各種の交通施策が交通・経済に与える影響を評価した研究を募集し、その内容および今後の開発が必要とされるモデル/データに関する議論を行う。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない
混雑制御	38	混雑制御と自律分散的メカニズムの設計: ゲーム理論・計算機科学アプローチ	Distributed Mechanism Design for Traffic Congestion Control Systems: Game Theoretic and Computer Scientific Approaches	宮城俊彦・東北大学大学院 情報科学研究科	赤松隆・東北大学大学院 情報科学研究科	wadaken@plan.civil.tohoku.ac.jp	近年のゲーム理論・計算機科学の融合は、社会・経済現象の記述・分析のみならず、その制御・管理のための方法論を急速に発展させている。その中心的な課題は、多数の主体の行動結果として望ましい状態を実現するシステムの構築である。ITSの高度化が進む交通の分野においても、多数の道路利用者を自律分散的に協調させるメカニズムの設計は重要な課題である。以上を踏まえ、本セッションでは、1)相互作用を考慮した自律的な主体の行動モデル(e.g.粒子モデル、動学・学習モデル、社会ネットワークモデル、構造推定)、2)交通システム制御のためのメカニズム(e.g.予約制、通行権、動的課金、オークション)について議論を行う。	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない
交通安全	39	交通安全対策とその効果	Road safety measures and effectiveness	高宮 進・国土交通省国土技術政策総合研究所 道路研究部道路空間高度化研究室	渡邊 政義・独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地道路研究グループ寒地交通チーム	takamiya-s92tc@nilim.go.jp	平成22年の交通事故による死者数は4,863人で、交通事故件数、負傷者数と相まって、近年は連続的に減少してきた。しかしながら、依然として多くの人が交通事故で死傷しており、第9次交通安全基本計画も、より高い目標を掲げ決定されたところである。事故削減に向けて「道路交通環境の整備」は重要な役割を占め、ここでは「施策パフォーマンス」の向上が不可欠である。本セッションでは、歩行者・自転車・自動車など多様な道路利用者が多様に行き交う一般道路を中心に、交通安全対策事例やその効果等について研究発表を公募し、知見を整理・共有するとともに、今後検討すべき領域やより良い交通安全対策の方向性について議論したい。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない

救急医療	40	地域医療支援のための救急搬送(救急医療・救急搬送)	First aid transportation to support local medical care (First aid medical care / first aid transportation)	高山純一・金沢大学	二神 透・愛媛大学	takayama@kanazawa-u.ac.jp	減少・齢化など、地域を取り巻く社会環境の悪化が間近に迫っており、特に「過疎地域の地域医療」は医者不足や3次救急医療機関の都市集中により、ますます課題が大きくなってきている。そのなかで、高速道路等の整備を含め、社会インフラの整備が進む中で、救急医療を取り巻く環境も変化してきており、今後、どのように地域医療の支援を検討していけばよいか、不明である。ここでは、地域医療・援のための方法論とその課題について検討を行う。	速報的・萌芽的分野	2	あり	未定
会話・対話	41	会話・対話の解析とマネジメント	Analyzing discourse for discussion management	佐々木邦明・山梨大学	榊原弘之・山口大学	sasaki@yamanashi.ac.jp	まちづくりや社会基盤整備のパブリックインボルブメントなどにおいてワークショップや住民説明会等の対話の機会が増えている。そのマネジメントは多くの場合、ファシリテータ等の属人的な能力、経験に強く委ねられている。しかしながら、公正にこれらを実施し、その成果を計画に適切に反映させるためには、対話や討議のプロセスのあり方、得るべき合意事項、総括すべき知見は何かという点において知見が積み上げられる必要がある。本セッションでは会話や討議自体を解析対象とし、そこから合意事項や知見を如何にして的確に、また効率的に抽出するための方法を議論する。またその知見からプロセスデザインとマネジメントについて展望する。	集中討議分野	1	あり	
市民参加	42	市民参加・PI	Citizen Participation, Public Involvement	寺部慎太郎・東京理科大学	矢嶋宏光・財団法人計量計画研究所	terabe@rs.noda.tu.s.ac.jp	本企画セッションの目的は、PI(パブリック・インボルブメント)、市民参加について実務的な研究を高度化させることである。これまでも様々な機会、社会基盤の計画プロセスにおいてPIや市民参加の事例が発表されており、その審議自体が貴重であるが、本セッションでは既往の研究発表をさらに発展させ、PIのプロセス・マネジメントの研究、PIツールの研究、メディアーション(紛争解決)やファシリテーション、心理学的アプローチを応用した研究、地域自治とソーシャルキャピタル、SNS等の活用などの観点からPI・市民参加を論じた投稿を歓迎する。	実務・技術者課題分野	2	あり	論文発表とポスター掲示が同時に行えるセッションを希望します
コンサーン・アセスメント	43	コンサーン・アセスメント	Concern Assessment	秀島栄三・名古屋工業大学	羽鳥剛史・愛媛大学	hideshima.eizo@ni-tech.ac.jp	社会基盤整備を進める上で関係する主体間の合意形成に向け、各主体が他者の関心、知識などを把握していくことは必ずしも容易なことではない。このようなコンサーンアセスメントは実際には住民説明会、審議会、パブリックコメントなどのプロセスにおいて様々なかたちで実践されている。そして市民社会の熟度が深まるにつれ、その重要性は増している。本セッションでは、コンサーンアセスメントのあり方を考える上での規範的議論から、コンサーンアセスメントに携わる実務家の役割、具体的な手立て、例えばICT技術の活用といったまで、様々な角度からコンサーンアセスメントの意義、課題、可能性について議論する。	速報的・萌芽的分野	1	無し	希望しない
制度設計	44	交通料金設定を通じた制度設計	Mechanism design through pricing policies for transportation services	松島格也・京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻	宇野伸宏・京都大学経営管理大学院	matsushima.kakuya.7u@kyoto-u.ac.jp	ITS、交通ICカードといった高度通信技術の進展により、多種多様な交通料金が提案できるようになっている。交通サービスの多様な価格設定は、サービス提供者にとって知ることの出来ない消費者の個人情報を隠し隠しとして機能するとともに、個人の様々な行動のコーディネーションを図る役割を果たしうる。本セッションでは、交通サービスのプライシング戦略を通じた制度設計のあり方について理論的・実証的に検証する。具体的には、ITS技術を活用した交通需要マネジメント、交通ICカードの活用による交通行動と消費行動のコーディネーション、高速道路料金設定を通じたガバナンス、などについて検討する。	集中討議分野	1	あり	
社会資本マネジメント	45	人口減少時代の社会資本マネジメントの方向性	Infrastructure Management for Depopulated Regions and Cities	植村哲士・株式会社野村総合研究所		t-uemura@nri.co.jp	人口減少時代の都市・地域は、これまで経験したことのない諸課題を抱え、新たな指針が求められている。国、地方・地域、都市圏、都市、地区・街区などのさまざまな圏域で、減少する人口の世帯構成と空間分布及び生活スタイル、それに伴う住宅・街区整備や都市機能再配置、さらにそれらを支える社会基盤維持・管理と土地利用コントロール、また、制度面からの法律、行財政政策、都市計画体系のあり方が問われる。本セッションは、これらの中から都市の基本となる「社会資本」に基軸を置き、それをマネジメントするための関連する広範囲な問題を議論することを目指す。研究者、行政担当者、コンサルタントなど、多様な立場からの討議の場としたい。	集中討議分野	2	あり	希望しない
子育て	46	子育てしやすいまちづくり	Accessible Cities and Transportation for Childrearing	大森宣暁・東京大学	谷口綾子・筑波大学	nobuaki@ut.t.u-tokyo.ac.jp	少子高齢社会に直面している我が国において、子育て中の親の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、安全・安心・快適に外出活動に参加できる環境を整備することの重要性が増している。本セッションは、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、外出活動を含めた日常生活活動を行う上で直面するバリアに着目し、そのバリアを緩和し社会参加を支援するために有効な「子育てしやすいまちづくり」に向けた施策を、都市・交通・福祉など幅広い視点から総合的に議論する場としたい。	速報的・萌芽的分野	1	あり	希望しない

河川・都市計画	47	流域一体化を目指した河川計画と都市計画の相互連携策	Mutual Coordination between River Planning and City Planning toward the Unification of River Basin Area	大沢昌玄・日本大学理工学部土木工学科	埴正浩・日本海コンサルタント	moosawa@civil.cs.t.nihon-u.ac.jp	東日本大震災被災地では、津波から人命を守るため建築基準法第39条の災害危険区域指定や都市側での高盛土道路検討など河川・海岸・都市が相互連携した復興計画の検討がなされている。河川・海岸と都市は、相互に作用し影響を及ぼしあっており、相互の関係を考えなければ真の解決を得ることはできない。 そこで今回は、河川と都市の相互連携および流域一体化を集中討議することとし、河川計画と都市計画の相互連携のあり方を示す観点から、計画立案における効果的な相互連携策について実態を踏まえた上で議論を行う。さらに、河川計画を踏まえた土地活用インセンティブ、土地利用規制について意見交換したい。	速報的・萌芽的分野	1	あり	希望しない
物流	48	効率的かつ持続可能かつ住みやすい街づくりのための物流システム	Freight transport systems for mobile, sustainable and liveable community	谷口栄一・京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻	兵藤哲朗・東京海洋大学	taniguchi@kiban.kuciv.kyoto-u.ac.jp	世界の人口70億人の約半分が都市部に居住するようになった現代において、都市部における物流システムを効率的かつ持続可能かつ住みやすい街づくりのために役立つようにすることは重要である。そのためにはICTやITSなどの新技術を活用し、公民連携を進めることも必要となる。また東日本大震災のような大災害時においても十分活用でき、復旧も早い物流システムが求められている。さらに超高齢化社会を迎えた日本においては、高齢者の生活や医療・介護を支える物流システムも重要な課題となっている。このような様々な観点から、これからの都市物流システムに関する調査法、モデル化、施策の評価手法、デザイン手法などについて、議論を行いたい。	速報的・萌芽的分野	1	あり	希望しない
SWB	49	都市・交通分野におけるSWBの適用	Subjective Wellbeing (SWB) in Urban and Transportation Studies	張 峻屹・広島大学大学院国際協力研究科		zjiy@hiroshima-u.ac.jp	近年、都市・交通分野においてもSWB (Subjective Wellbeing) の研究が注目されるようになってきている。“移動時間の効用が本当にいつも負なのか”、“どのような政策を講じれば、ユーザーにとってより満足度の高いモビリティサービスを提供できるか”、“政策を講じた結果、人々の生活の質 (QOL) がどれだけ向上したか”などの質問に答えるために、SWBがもっと創造的な知見を与えることが期待されている。SWBの概念を活用した、政策モニタリング、政策設計、政策評価、関連行動分析などの様々な視点からの研究事例、政策応用事例などを募集する。 Recently, the concept of subjective wellbeing (SWB) has been attracting more and more attention in the urban and transportation field. It is expected that SWB could provide more innovative insights into answering questions such as “whether is the utility of travel time always negative?”, “which kinds of policies could further improve users’ satisfaction with the mobility services?”, “as a result of implementing policies, how much will people’s quality of life be enhanced?”, and so on and so forth. This session calls for papers related to policy monitoring, policy design, policy appraisal, and relevant behavioral analyses, etc., based on the concept of SBW.	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない
空間統計	50	応用空間統計	Applied Spatial Statistics	堤 盛人・筑波大学	瀬谷 創・国立環境研究所	seya.hajime@nies.go.jp	土木計画学における政策分析・予測・評価やそのためのモデリングにおいては、様々な空間データを扱う必要があり、空間データに内在する特質とこれに対する統計学的な面での考慮の必要性に関して、従来からその重要性が認識されてきた。近年、このようなデータを扱う学問分野である地球統計学や空間計量経済学は、実用化に向けて目覚ましい進歩を遂げている。本セッションは、空間データを扱った統計学的なアプローチによる様々な研究を公募し、その最新の研究動向についての情報交換と議論を行うことを目的とする。	速報的・萌芽的分野	1	あり	希望しない
まちづくり	51	まちづくりと総合交通政策の推進	Machizukuri and Integrated Transportation Policy	土井 勉・京都大学大学院工学研究科	正司健一・神戸大学大学院経営学研究科	doi@ulc.kyoto-u.ac.jp	環境的・社会的・経済的に持続可能な地域の形成や、安全で安心で人々に魅力あるまちの形成の推進、高齢社会を踏まえたまちづくりに関して公共交通を重視した交通体系を実現することは極めて重要である。これを実現するためには、快適な歩行者や自転車空間の形成や、持続可能な公共交通体系のハード&ソフト整備、さらに駐車場など自動車を含めた総合的な交通政策の推進と、都市計画やまちづくりのあり方を含めた検討を行うことが不可欠である。本セッションでは、以上の問題意識のもとに活発な議論を行いたい。	実務・技術者課題分野	2	あり	希望しない
公共政策	52	公共政策のための物語研究	Narrative research for public policy	藤井 聡・京都大学大学院工学研究科	松村 暢彦・大阪大学大学院工学研究科	fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp	公共政策において合理性は大いに尊重されてきた。一方で近年では、まちづくりやコミュニケーション施策等の、必ずしも「合理性」だけでは捉えきれない諸実践が広範に実施されつつある。こうした流れを公共政策論の中に的確に位置づけていくためには、合理性とは異なる新しい計画原理の導入が不可欠である。そして新しい計画原理として「物語」は極めて有望な可能性を秘めている。例えば、計画バージョン・基本構想の立案においても、まちづくりや国土づくりの展開においても、計画組織の活性化においても、「物語」は極めて重大な役割を担う。本企画セッションでは、そうした物語の可能性を巡る理論的、実践的研究報告を募集する。	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない

交通サービス信頼性	53	交通サービスの信頼性研究の更なる展開	Further Developments of Reliability Studies in Transport	福田大輔・東京工業大学大学院	中山昌一朗・金沢大学	fukuda@plan.cv.titech.ac.jp	本セッションは、交通サービスの信頼性に関して、調査技術(データ収集)・分析方法論(モデリング)・評価手法(パフォーマンス評価や便益評価)などの諸点から更なる展開を行なっている研究を募集し、今後の信頼性研究のあり方について包括的な討論を行うことを企図している。分析対象についても、これまで中心的に議論されてきた道路交通における旅行時間信頼性の観点のみならず、鉄道や航空などの公共交通における遅延問題や、ネットワークの連結信頼性の観点などについても、広く議論の対象としたい。	速報的・萌芽的分野	2	あり	希望しない
土地利用	54	人口減少下での実用型土地利用モデル ~政策提案に向けて~	Applied Land-Use Models in Depopulated Cities - to Proposal of Policy Measures -	北詰恵一・関西大学環境都市工学部		kitazume@kansai-u.ac.jp	人口減少下にある都市圏では、都心居住やTOD政策、あるいは社会基盤の統廃合など、増加局面とは異なる政策実施が進んでいる。しかし、これらの政策が土地利用や市民生活にどのような影響を及ぼすか必ずしも明確ではない。従って、このような政策評価が可能な新たな都市モデルが必要である。ただし、人口減少下での土地利用変化はより複雑なことから、詳細なゾーンと主体区分を分析単位とし、時間軸に沿った環境変化を盛り込むことができる柔軟な表現の可能なモデルが求められる。本セッションでは、政策評価可能な実用型土地利用モデルに求められる考え方、要件、ツールを議論し、さらに、実際のモデル開発を通じて、必要な都市政策について意見交換したい。	集中討議分野	2	あり	希望しない